論文要旨

労働市場の数理的分析～職業選択の多様性

峯岸美希（経済学部 4 年）

指導教員：穂刈亨

社会には様々な生き方をしている人たちがいて、それぞれの人にとって労働は密接に結びついている。ほぼすべての人にとって身近な労働市場を、抽象的な分析手法である数理的手法を用いて扱うことで、誰にとっても身近である労働市場で起こっている各種の現象の意味を論理的に説明することは、現実の世界を解釈するために意義のあることであると考えられる。経済学では社会における問題を解決するにあたって、限られた資源の最適分配による社会全体の利潤最大化を目指す。高齢化が進み、労働力人口の減少が今後さらに進んでいくことが予想される現代において、限りある資源としての労働力を、無駄に消耗することなく、いかにして現実に還元していくことができるか、具体的に考えていく必要に迫られている。人々の価値観を尊重した上で、時代に合わせた労働市場の在り方について、いくつかの資料や事例・経済モデルを用いて、自分なりの考えをまとめた。

1 節では労働について考える意味について、身近なケースを挙げて解説している。2 節では若年雇用者を対象に作られた制度の概要について解説した上で、企業サイドのフロー分析から、企業の技術水準の決定とマッチングとの関係性について述べている。3 節では職業を 3 類型に分けた上で、技術革新の、各職種の人口分布に与える影響について、著書『労働経済学入門』の著者らの主張をもとに、推論を展開する。また、「スキル偏向的技術進歩」や AI を例に挙げ、コンピューターや機械等の技術革新の、職種人口に与える効果をとはどのようなものがあるのかについて、再度主張を行う。4 節では、3 節を受けて労働者の職種間移動について、技術進歩との関係性からの分析を行い、技術革新が既存の労働市場および雇用のマッチングに与える影響について、歴史的事実や因果効果およびグラフによる分析からたてた推論を述べている。5 節では、成長の著しい IT 分野における市場の流動性について、IT 業務を今後誰がどのように担っていくべきかという議論の下で、雇用慣行との関係を踏まえながら展開する。また、スーパースターの経済学と呼ばれる、最近になって登場したモデルの、インターネット環境の普及との関連性に

ついても検証する。最後に、6 節ではそれまでの論点をふまえて、これからの雇用のありかたについて、具体的な施策や政策を提案・照会しながら結論を導いている。

コンピューターの発達は多くの研究者や開発者によって進められているもので、それ自体が多くの雇用を生み出していると考えることができる。さらに、コンピューター関連産業も多い。これらは労働需要を押し上げる要因であるという点ではＩＴ産業と雇用は補完的な関係性であるが、ＩＴに代替され、労働需要を減少させる要因ともなっている。このように、ＩＴ産業は、労働市場における需要の増加と減少の両方の要因であるといえる。